

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 101-0041
所在地 東京都千代田区神田須田町1丁目9番
神田須田町プレイス203号

評価機関名 株式会社 福祉規格総合研究所

認証評価機関番号 機構 03 — 109
電話番号 03-3258-0348
代表者氏名 代表取締役 林 俊哉 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	
	②		福祉	
	③		福祉	
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	のぞみ保育園			
事業所連絡先	〒	153-8516		
	所在地	東京都目黒区大橋2丁目19番1号		
	TEL	03-3466-0269		
事業所代表者氏名	園長 北村衛也			
契約日	2025 年 5 月 19 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 9 月 16 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 11 月 6 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 9 月 1 日			
自己評価結果報告日	2025 年 11 月 6 日			
訪問調査日	2025 年 11 月 13 日			
評価合議日	2025 年 11 月 13 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	令和6年度に続いての第三者評価への取り組みである。今年度は当社が担当した。利用者調査はアンケート方式により実施した。事業所より調査票と返信用封筒を配付してもらい、記入後は評価機関宛に直接郵送してもらった。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ◎ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 1 月 14 日

事業者代表者氏名 園長 北村衛也 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)すべての人に心を尽くして支援します。 2)子どもの幸せを第一に考え、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもの育ちを支えます。 3)子どもや保護者の思いや気持ちを受けとめます。 4)職員同士よく話し合い、園全体で子どもの育ちを支えます。 5)いろいろな体験を通し、子どもの良いところを伸ばす保育を目指します。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・常に課題意識を持ち、サービス向上に取り組む。 ・常に学ぶ姿勢を持ち、スキルアップに取り組む。 ・利用者の思いを受け止め、利用者の立場で理解しようとする。 ・チームメンバーや他部門、他機関と連携し、チームで役割分担をして業務に取り組む。
	(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・理念の実践に取り組む。 ・専門職としての誇りと責任を持つ。 ・全体を見て判断する。

調査対象	調査日時点の利用者の全世帯を対象とした。利用者総数は72名であった。		
調査方法	アンケート方式により実施した。事業所より調査票と返信用封筒を配付してもらい、記入後は評価機関宛に直接郵送してもらった。		
利用者総数	72		
利用者家族総数(世帯)	57		
共通評価項目による調査対象者数	57		
共通評価項目による調査の有効回答者数	27		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	47.4		

利用者調査全体のコメント

27名の回答があり、回答者割合は5割弱であった。 総合的な園の感想として「大変満足」が19名、「満足」が8名と、有効回答数の全てを占めている。 自由意見では、丁寧な対応、きめ細やかな保育、適切なフォロー、充実した行事等に、満足感を示すコメントが多く見られた。一方で、連絡帳のデジタル化やオムツの定額利用の導入を希望する意見も出ていた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	27	0	0	0
すべての回答者が「はい」としている。外遊び、自由遊び、製作、行事、体操教室等が挙げられており、「活動が充実している」、「子どもの発育や興味、季節に合わせて活動に工夫がある」等のコメントがあった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	24	3	0	0
8割以上の回答者が「はい」としている。「季節の製作を楽しんでいる」、「さまざまな活動を通して子どもの成長を感じることができる」等のコメントがあった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	26	1	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「栄養バランスがよく考えられている」、「子どもがたくさん食べている」等のコメントがあった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	26	1	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「季節行事が充実しており、家庭ではできない経験ができる」、「園（法人全体）の広い敷地や周辺の広い公園等、遊ぶ場所に恵まれている」等のコメントがあった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	21	1	0	5
7割以上の回答者が「はい」としている。急な延長保育や土曜保育について、「柔軟に対応してくれる」というコメントが複数あった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	26	1	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「定期的に避難訓練をしている」、「フリーの職員も保育に入るので目が行き届いていると思う」、「0歳の保育室は囲いがあり、小さな赤ちゃんも安心」等のコメントがあった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	25	2	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「保護者が参加する行事は土曜日から平日夕方に開催されるので参加しやすい」というコメントがあった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	26	1	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「ベテランの先生が多く安心」、「信頼できる方ばかりなので悩み事も相談できる」等のコメントがあった。一方で、「職員によると感じる」という意見も出ていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	26	1	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「いつもきれいに掃除している」、「おもちゃは子どもが片付けやすい配置になっている」等のコメントがあった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	25	2	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「子ども、保護者ともに丁寧に接してくれている」というコメントがあった。一方で、「大多数は適切だが個人差がある」、「職員同士の言葉遣いがたまに気になる」という意見も出ていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	27	0	0	0
すべての回答者が「はい」としている。「詳細を報告してくれるため安心して預けられる」というコメントがあった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	23	2	0	2
8割以上の回答者が「はい」としている。「ケガやかみつき等のトラブルがあった際は、きちんと報告・謝罪してくれる」というコメントがあった。一方で、「必ずしも親の希望する対応とは限らないが仕方ないと思う」という意見も出ていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	2	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「連絡帳のコメントから、子ども一人ひとりをよく見てくれているのがわかる」というコメントがあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	22	3	0	2
8割以上の回答者が「はい」としている。「きちんと配慮されている」というコメントがあった。一方で、「連絡帳の取り違え(入れ間違い)がある」という意見も出ていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	23	4	0	0
8割以上の回答者が「はい」としている。「年度初めのおたよりや個人面談で説明・報告がある」というコメントがあった。一方で、「連絡帳の記載内容やお迎え時の引き渡しは、職員によって差がある」という意見も出ていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	24	1	0	2
8割以上の回答者が「はい」としている。「必要に応じてきちんと検討・改善してくれる」、「職員間で共有されている」等のコメントがあった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	21	2	1	3
7割以上の回答者が「はい」としている。「年度初めの説明会で説明がある」というコメントがあった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	理念や方針について職員や保護者の理解が深まるように取り組んでいる 法人の基本理念のもとに運営方針を定め実践している。理念、方針を踏まえて保育目標を設定している。全職員に配布するマニュアルにおいて、法人基本精神、法人の使命、園の基本方針、園の運営方針を明示して、理解浸透を図っている。職員会議の議案書においても、基本理念、運営方針を記載し、実践内容が理念と整合するように意識づけている。また、理念、方針、保育目標は、入園説明会や園だよりを通して保護者に周知されており、園の方針に信頼や協力を得られるようにしている。		
	経営層は各種会議に出席し、職員と意思統一を図りながら園運営をリードしている 経営層の役割と責任をマニュアルに記載し、園長の下に主任、乳児・幼児の各リーダーを配置して連携体制を整えている。園長は保育運営のため、各種会議に出席して情報を共有し、保育士会倫理綱領、職員倫理規程を含めた各種マニュアルを配布し、それらを踏まえて、職員との意思統一を図っている。法人の施設長会議では法人全体の情報共有に努め、園運営に反映させるようにしている。主任と共に職員の育成に取り組む等、自らの役割と責任を果たし園運営をリードしている。		
	重要な案件は理事長や理事会で検討し、決定事項は会議で周知している 理事長や理事会の決定が必要な案件は、法人内の規定により稟議書または伺い書の提出により理事長や理事会の判断を仰ぐ手順となっている。重要な決定事項は会議を通じて周知、欠席者には会議録を回覧する仕組みとし、口頭による場合もある。園内では、職員会議が開催され、案件に応じて検討や決定、情報共有が行われている。緊急の伝達事項がある場合は、直近の会議を通したり、リーダーを招集するなど迅速な意思疎通に努めている。保護者に報告する事項がある場合は、園だより、メール配信、配布物により、その内容と経緯について説明している。		

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◎あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
◎あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
◎あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○●)
評価	標準項目	
○あり ◎なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ-2の講評		
保護者の意向、業界の動向等を積極的に把握し課題を抽出している 保護者のニーズを把握するために、行事後は各家庭にアンケート実施して、感想や意見を聞き取っている。アンケート結果は会議等で共有して、速やかに対応できる要望については検討して改善している。地域の保育ニーズ等に関する情報は、区内の園長会に参加することで把握しており、ここで行政情報や動向等も知ることができる。保育団体や関係機関からの情報もあるほか、新聞や情報誌等を参考に情報を収集している。以上の情報収集の結果を踏まえて保育を取り巻く環境や現状を分析し、対応すべき課題を抽出している。 園の課題を踏まえてビジョン実現を目指し、毎年度事業計画を策定している 園としての中長期計画は具体化していないものの、少子化の影響下での園児獲得や人材確保を見据えた園の魅力発信、ICT化の促進を重要課題としている。単年度事業計画では理念や方針、目標を明確にし、具体的な活動を記載している。事業計画に沿って収入と支出のバランスを考慮しながら、必要な経費を見積もった当初予算を編成している。経営状況は施設長会議で確認し、適正な予算執行に努めている。 状況変化に応じて計画を見直ししながら着実に遂行している 前年度の反省を活かして、事業計画、保育の各種計画を策定している。計画立案の際は、保護者や職員の意向も反映させている。年度初めに体制や役割分担を明らかにして、計画を遂行している。定期的に職員会議やフロア会議を中心に業務の振り返りを実施し、計画の進捗確認を行っている。計画遂行を阻害する環境の変化として、調理スタッフの不在や物価高騰の影響も受けているが、9月から給食業務の外部委託を開始し、給食の提供を継続している。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◎あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
◎あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

質の高い保育を提供できるように、法令順守について定期的に確認している

職員が守るべき規範や倫理に関しては、就業規則にサービスの心得を明示している。職員の採用時には就業規則、保育士会倫理綱領、職員倫理規程(利用者の人権擁護・プライバシー保護、利用者の主体性の尊重を含む)、マニュアルを配布して、法令遵守を徹底している。虐待防止の取り組みとして、定期的に注意喚起している。虐待の情報を得た時の対応をフローチャートにまとめ、区の保育課、子ども家庭支援センター、東京都児相の連絡先を記載して緊急時に対応できるようにしている。

苦情解決制度を整備して子どもの最善の利益を守ることに努めている

苦情解決制度については、入園面接時に資料を基に説明している。苦情が出された場合には、仕組みに基づいて施設苦情解決委員会が対応し、必要に応じて面接を行う等、解決に向けての話し合いを行う。苦情受付の担当者は主任、解決責任者は園長である。苦情解決の第三者委員の氏名、電話番号を公開している。園内に、意見箱を設置し、書面による申し出も受け付けている。また透明性確保・向上のため、園のホームページにて園の活動の様子を紹介し、法人のホームページでも園の情報を公開している。

一時預かり事業や育児講座を実施して地域福祉の向上に努めている

地域貢献の取り組みとして、定員4名の一時預かりを実施している。また、年3回の育児講座を開催する等、地域ニーズに対応した課題解消に貢献している。実習生は主任が担当し、積極的に受け入れている。そのほかに法人内高齢者施設の訪問、隣接する高校や一貫校との交流、地区内他園との交流会等、園児との交流の機会を設けている。地域での役割を果たすために、園長は要保護児童対策協議会、区の園長会や子ども子育て会議等のネットワークに参画して、連携の幅を広げている。

カテゴリ-4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1 (4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
◎ あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当
サブカテゴリ-2 (4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリ-4の講評		
事故再発防止策として、リスク会議で検討し職員会議で共有する仕組みがある 園運営におけるリスク対策として、主任、乳児リーダー、幼児リーダーによるリスク会議を設置し、ここに情報を集約した上で毎月会議を開催している。迅速な情報共有が必要な場合は、適時会議を開催する。事故発生の要因を集計・分析して再発防止策を検討し、毎月の職員会議で報告し、関係者には会議録の回覧によって事故防止策を周知徹底する仕組みとしている。6月の職員会議では前年度のヒヤリハットの傾向について報告され、職員の事故未然防止の意識を高めている。 事業継続計画を検証して実効性を高めることが課題となっている 防災計画に基づき地震・火災の防災訓練・防災学習の実施、法人内の他施設と合同で行う総合訓練を実施して、安全確保の対策を講じている。安全衛生管理マニュアルとして、保育の室内外や遊具における注意点、プール・散歩・給食における緊急時対応、不審者、災害等の各種マニュアルを取りまとめている。事業継続計画は災害時行動指針を明確にし、重要業務の設定、復旧手順、備蓄等について詳細に示している。ただし近年の気象災害の影響も考慮し、実際に機能できるかを検証する必要性を認識しており、マニュアルの活用も含めて今後の課題としている。 法人の個人情報保護方針の基に規程・マニュアルを整備し、必要な対策を講じている 法人の個人情報保護方針に基づき、規程・マニュアルを定めている。職員には入職時にマニュアルを配布して説明し、実習生やボランティアの受け入れ時には、守秘義務等の配慮事項について説明している。保護者には、入園時に個人情報の取り扱いについて記載した資料を基に重要事項として説明して同意を得ている。また、利用者や職員に関する個人情報等の重要な情報については、鍵付きの書庫で保管管理している。職員が使用するパソコンについては、法人の使用規程により、端末や記録媒体の情報の適正な利用に努めている。		

5 職員と組織の能力向上			カテゴリ-5
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(○○)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(○●)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○ 非該当
○あり ◎なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(○○○○)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○ 非該当
◎あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(○○○○)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○ 非該当
◎あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○ 非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(○○○)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○ 非該当

カテゴリー5の講評
職員面談を通して意向を把握し、保育体制の適切な配置の参考としている
園が職員に求め、期待する基準は就業規則に明示している。人事評価ではなくシートを用いた目標管理制度を実施している。年度末に主任・園長と面談を行い、達成度を確認し次年度の目標を設定することで、個人の成長と意欲向上につなげている。また面談を通して、来年度の保育体制に向けた適切な配置や研修計画の参考としている。新採用者には法人主催の新人研修への参加と、指導役の職員が業務のフォローを行う。リーダー以外の職員に対しても、毎月シートを用いた振り返りと来月に向けた課題の整理、調整を行い、きめ細かに育成支援している。
職員の学びと経験を園全体の保育の質の向上につなげる仕組みづくりが課題となっている
園のキャリアパスは、有期職員を含む新任職員から施設長までの5階層別の職員像と格付が設定され、全職員に配布するマニュアルに示されている。個別の研修計画は、年度の事業計画において各役職・職種ごとの経験年数と、キャリアアップ研修を中心とした研修テーマを明確にして経験に応じた能力向上を図っている。次世代のリーダーを含めたキャリアパスと整合した個別の育成計画については十分に整備されていない。そのため経営層は人材育成を主眼として、これらを系統立てて整備することを課題として捉え、方策を検討している。
職員の気づきや工夫を会議で共有し、チームワークの促進に取り組んでいる
組織の将来を見据え、働きやすい環境の整備を進めている。勤務表は職員の希望を踏まえて作成し、有給休暇はなるべく希望に添えるように配慮している。外部研修には、どの職員も年1回は勤務時間内に受講できるように勤務調整している。ストレスチェックを年1回実施し、法人の産業医に健康相談できる体制を整えている。また、職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、クラス会議やフロア会議で話し合う時間を設け、サービスの質の向上や業務改善に活かすために、各種会議、記録類、ヒヤリハット報告等の活用と充実に努めている。

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
カテゴリー7	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 保育の質を維持・向上させていくために、ICT化の推進を重点課題とした。その実践としてICTを活用して、業務の省力化、連絡の迅速化につなげ、課題解決に取り組んだ。 昨年度の主な成果としては、①カリキュラム、クラス日誌、児童票をICTのシステムに全面移行した。②メール配信は別のシステムを併用していたため統合させた。③システム上の共有キャビネットの利用により、職員間のデータアクセス性を向上させた。さらに、紙使用量の減少、データ利用による省力化、情報漏洩リスクの減少に効果があり、業務改善につなげることができた。今後の課題として連絡帳の電子化を残しているが、今年度内に保護者の試用を開始し、年度内の移行が見込まれている。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 重点課題については、昨年度の達成状況を事業報告書に記載し、それを踏まえて今年度の事業計画書において次の課題を明らかにしている。計画を着実に遂行するために、補助金を利用してパソコンを整備しているが、今年度はタブレット端末等を予算化してハード面の充実を予定している。今回の職員自己評価では、ICT化について評価する意見が複数あり、業務改善に向けてチームで取り組み様子がうかがわれた。また、利用者アンケートからは、連絡帳の電子化に期待を寄せる提案がなされている。保護者の負担軽減を図るとともに、職員の声を聞き取りながら子どもと向き合う時間の創出につなげることが期待されている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

社会的に保育を取り巻く状況として、不適切保育防止や特に子どもの性被害の防止が注目されている。そのため、当園においても子どもの人権尊重とプライバシー保護について様々な視点から園内の環境を見直した。看護師が研修会に参加して情報を得て、職員会議にて説明して職員の知識を深めた。子どもに対しては、プライバシー教育を行い、紙芝居等を使用して説明した。設備面の改善では、性差の違和感を覚えるのが4・5歳頃であることを考慮し、幼児保育室に着替え用のカーテンレールを設置した。プールの着替えの際は、子どもが全裸にならないように配慮し、毎月実施している身体測定は、男女別で行うようにした。これらの取り組みの結果、職員と子どもがプライバシーに対する意識の向上が見られた。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園の法令順守の取り組みとして、全職員に配布するマニュアルには、就業規則、保育士会倫理綱領、職員倫理規程(利用者の人権擁護・プライバシー保護、利用者の主体性の尊重を含む)をまとめ、専門性と責任の自覚を促している。また、子どもの羞恥心への配慮については、会議で話し合っ内容や方法を決めて、職員で意識を高めている。経営層は、子どもの成長の過程で生じる性差や羞恥心への配慮にとどまらず、子どもの人権尊重の観点から広い視点でとらえるべきと認識し、課題への取り組みを継続するとしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
ホームページやパンフレット等を活用して広く情報を提供している 利用希望者等に対しては、ホームページやパンフレットを作成し、園の情報を提供している。ホームページでは、園の概要、園の生活としてデイリープログラムや年間の行事予定、アルバムとして行事の様子等の情報を掲載している。一時預かりや採用情報も載せるようにしている。ホームページは文字だけでなく写真やイラストを用いることで、園の様子がわかりやすく伝わるよう工夫している。 区や関係機関の求めに応じて園の情報を提供し、連携を図っている 行政や関係する機関へは、在園児の状況や運営上の基本的な情報について報告している。区のホームページや保育園を紹介する冊子に園の情報を掲載して、情報が得られるようにしている。日頃より情報の交換を行い、園を運営するうえで連携を取ることができるように努めている。地域の情勢を把握し連携を取る機会として、区内の園長会等に出席している。 見学は希望に合わせて個別に設定し園で大切にしていることや環境面等について説明する 問い合わせや見学の要望があった場合には、随時対応している。見学の日時は見学日としてまとめるのではなく、希望者の都合に合わせて、個別に設定している。対応は主任が行い、パンフレットに沿ってできる限りわかりやすく・具体的に説明をしている。園で大切にしていることや環境面等について説明している。不安に思っていることが解消できるように働きかけ、質問は当日だけでなく後日電話でも受けるようにしている。			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
◎あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園決定後に面接を実施し、資料に沿って説明を行い保護者に同意を得ている 入園にあたり子どもの情報を把握するため、様々な書類を保護者から提出してもらっている。提出された情報を踏まえ、入園面接を行っている。面接は園長、看護師、担任の職員がそれぞれ分担して対応している。オリエンテーション資料に沿って保育内容について説明を行い、保護者に同意を得ている。保護者が不安に思っていることや疑問点にも答えている。面接での情報を面接シートに記録するとともに、子どもの支援に必要な情報については会議で報告して職員間で把握している。 入園直後は慣れ保育を実施し、期間は保護者と相談の上で決定している 利用開始直後は子どもの不安やストレスが軽減されるように、「慣れ保育」を3日間を設定している。保育時間や実施期間については、保護者と相談の上で勤務状況と照らし合わせながら調整している。個々の子どもの生活状況に合わせ、家庭での生活が継続されたものになるよう配慮している。担任の職員の勤務シフトを調整して受け入れできるようにすることで、早期の信頼関係の構築につなげている。 転園等のサービス終了時には手紙を保護者に渡し、卒園後は学童と交流する機会がある 就学に向けては、保育所児童保育要録を小学校に提出している。必要に応じて面談をする等、小学校との情報共有や連携を図っている。転園等のサービス終了時には、手紙を保護者に渡している。園の行事(夏まつり)にも招待して交流を図っている。法人内の学童クラブとの交流の機会を設けているため、卒園後も継続した支援につながっている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(○○○○○)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
◎あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
◎あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(○○)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◎あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引き継ぎ等を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
各種指導計画を策定し、保護者には年度初めの保護者会で説明をしている 子どもの状況については、児童票・発達記録・連絡帳等に記録して把握している。全体的な計画を基に、年間指導計画、月間指導計画等の各種指導計画を策定している。保護者には年度初めの保護者会で、各クラスの年間指導計画を配布して説明している。乳児は紙の連絡帳に家庭と園で子どもの様子を記録して共有し、幼児も必要な場合は個々の連絡ノートを使っている。		
0から2歳児は個別に月間指導計画を作成して保育にあたっている ICTのシステムを活用し、各種計画や日誌をデータで管理している。計画作成にあたっては、各担任の職員が子どもの様子や状況を踏まえて作成し、全員で見直しをしている。計画に基づいて保育を行い、子どもの状態がどのように推移しているかを把握している。計画は、0から2歳児は個別に月間指導計画を作成している。3歳児以上はクラス別に作成するが、必要に応じて個別の配慮を計画に乗せている。		
職員間では各種会議のほかに引き継ぎノートを活用して情報を共有している 子どもの状態や状況に変化があった場合には、職員会議、カリキュラム会議、フロア会議等で情報共有している。会議録を作成して事務所に置くことで、会議に欠席した職員が確認できるようにしている。各クラスでは引き継ぎノートを使い、子どもや保護者の状況を職員間で引き継いでいる。そのほか必要があれば、主任保育士が各クラスを回って職員に周知している。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
入園時に個人情報の取り扱いについて保護者に説明し、同意を得ている 法人の個人情報保護方針のに基づき、規程・マニュアルを定めている。入園時には保護者に説明の上、同意の署名を得ている。子どもの情報に関して、外部とやりとりをする必要性が生じた場合には、保護者の承諾を得るようにしている。子どもや保護者のプライバシーに関わる機密性の高い書類は、施錠のできる書庫にて管理している。 子どもたちのプライバシーや羞恥心に配慮した支援に努めている 年齢や発達を考慮して、子どもの羞恥心に配慮した支援を心がけている。4・5歳児ではプールの時に裸にならないように配慮している。着替える際にもカーテンで目隠しをして周囲から見えないように工夫している。身体測定の際にも、男女別で実施するように配慮している。そのほかにも子ども自身で意識できるように、看護師からプライベートゾーンについての話等の保健指導も実施している。 虐待の情報を得た場合には園長に報告し、関係機関と連携できる体制を整えている 虐待を受けている疑いやその情報を得た場合には園長に速やかに報告している。各種会議等で園内で情報を共有し、統一した対応をとることができるようにしている。必要に応じて、区・子ども家庭センター・児童相談所等へ連絡を行う体制を整えている。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
マニュアル等、職員に必要となる情報をファイルにまとめて整備している 園で必要とされる業務手順や衛生管理・BCP・全体的な計画等をファイルにまとめて整備している。そのほかに、保育士会倫理綱領、職員倫理規程、就業規則、園規則等、職員に必要となる情報もまとめている。ファイルは事務所に整備している。それぞれのマニュアルは職員一人ひとりに配布して周知している。マニュアルは必要時に改訂を行い、職員間で確認している。 毎月の職員会議の中で、基本事項や手順等について見直しを実施している サービスの基本事項や手順等については、毎月の職員会議の中で見直しを実施している。また、フロア会議等、職員間で話し合いができる機会を設定して、職員の資質の向上と業務の標準化に努めている。利用者調査、個人面談、保育参観、クラス懇談会等で得た保護者の意向や、行事後のアンケートで得た感想等を計画に反映できるよう努めている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ-4	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている				
評点(〇〇〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している			○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○非該当
◎あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			○非該当
評価項目1の講評				
子どもの個性に配慮して、子どもの気持ちに共感することを大切にした保育を行っている 一人ひとりの発達過程や生活環境等は、児童票・発達記録・連絡帳などに記録して把握している。児童票・保育日誌・指導計画等は、ICTのシステムを用いて職員間で共有している。子どもの個性や個人差に配慮して、一人ひとりを大切に保育を心がけて、特に乳児は個別の指導計画を作成し毎月振り返りを行っている。子どもの気持ちに共感することを大切にして、注意をする時は子どもの理由を理解し共感してから、なぜだめなのかを話している。子どもと話す時は、わかりやすい言葉や表現で、否定語を使わないように努めている。 子どもが自ら自由に遊べる環境を作り、日常的に様々な人に接し交流できる環境がある 子どもが周囲に興味や関心を持ち、自ら行動できるように、各クラスでコーナー遊びを取り入れている。0歳児クラスは室内に囲いのあるスペースを設けて、月齢が小さい子どもも安全に遊べる配慮がある。屋外には桜やあんずの木がある広い園庭や、法人のグラウンド、人工芝の広場、ガーデンがある。周囲に同法人の高齢者施設、障がい者施設、学童クラブ等があり、子どもたちが日常的に様々な人と接して交流できる環境がある。また、朝夕の自由遊びや行事、幼児は毎月の縦割り保育活動で異年齢交流があり、互いの違いを認めて尊重することを経験から得ている。 発達支援の専門機関や小学校と連携して、配慮が必要な場合は園全体で援助している 特別な配慮が必要な場合はクラスに職員を加配し、専門機関の巡回指導、就学前巡回相談で助言を得ている。今年度は加配が必要なケースはないが、発達が気になる子どもが通う支援機関から担当者が来園して、園での子どもの様子を観察し話し合う機会がある。また、職員会議等でクラス担任以外の職員も状況を把握し、ケース会議で時間をかけて検討して園全体で援助している。小学校との連携は保育要録の提出のほかに、年長・小学1年生担任懇談会がある。子ども同士の交流もあり、小学校を訪問して見学し運動会等の小学校行事にできる限り参加している。				

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
◎あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
保護者との連携は連絡帳等を使いながら、登降園時に直接話して一緒に確認している 保護者との連携は、乳児は連絡帳に家庭と園で子どもの様子を記録して共有し、幼児も必要な場合は個々の連絡ノートを使っている。登園時は保護者に家庭での子どもの様子や体調を聞き、視診でも確認をして、気になることは保護者と一緒に確かめる。職員間で共有すべきことは、クラスの引き継ぎノートに記録している。降園時は乳児はその日の様子を連絡帳に記録し、幼児はクラスの様子を書いて掲示している。保護者への伝言は漏れがないように引き継ぎノートに書き、口頭でも伝えている。必要に応じて、クラス担任や主任が直接話すことがある。 個人差に配慮して生活習慣の自立に向けて援助して、保護者に園の取り組みを伝えている 子どもの個人差に配慮しながら、生活習慣の自立に向けて一人ひとりに応じた援助をしている。乳児は個別の月間指導計画を作成して、毎月見直す。特に0歳児クラスの計画は、食事・睡眠・排泄・着脱等の様子を記録して、個別に援助のわらいや内容、配慮事項を記入している。保護者には園だより、クラスだよりで、年齢に応じた生活習慣の取り組みや子どもの成長を紹介して、家庭でも大切にしてほしいことを伝えている。また、個別には連絡帳に記入したり個人面談で伝えて、必要な場合は主任も加わり保護者と具体的な援助を話し合うこともある。 午睡を含めた休息は、子どもの成長や生活リズム、その日の状況等に応じて行っている 休息や午睡は、乳児は各保育室で、月齢に応じてベビーベッド、ベビー用布団、子ども用簡易ベッドを使っている。幼児の午睡はホールで、寝具は子ども用お昼寝マットを使っている。子どもの生活リズムやその日の状況に応じて、朝寝、夕寝も個別に取り入れている。昨年度は「強制しない午睡」に取り組み、午前中の保育活動を見直したり、寝る場所を子どもに合わせる等の配慮をしている。年長児は小学校生活への移行を考慮して、年度の後半から午睡に入る時間を遅らせたり徐々に減らし、1月からは午睡しない日を設けている。		
3 評価項目3		
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
◎あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
◎あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
◎あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
子どもが主体となり、自ら選択して遊び込んだり、行動できる環境や取り組みがある 子どもが自ら選択して遊び込めるように、月齢や年齢に応じた遊びのコーナーを設けている。「すくわくプログラム」として「音」をテーマにした取り組みを、5歳児クラスで今年度から始めている。いろいろな音を集めることから始まり、次に手作り楽器を工夫して製作し、演奏家が来園したコンサートで一緒に演奏した。幼児クラスは集団活動に主体的に関われるように、当番活動を取り入れたり、行事で役割を決めて取り組んでいる。幼児クラスは、円になって座り対話や活動をするサークルタイムを実施しており、2歳児にも広げようとしている。 日々の対話で言葉に対する感覚を養い、様々な表現活動を楽しめるように工夫している 子どもが言葉の感覚を養い、言葉で相手に伝えることができるように、保育者は年齢等に配慮して、わかりやすい言葉や表現を心がけている。また、否定語を使わないように努めている。乳児は発語につながる身振りや指差しも大切にして、応答的なやり取りを行っている。年齢や季節に合わせた音楽や製作、様々な表現遊び等を取り入れて、子どもたちが楽しめるように工夫している。4・5歳児を対象に専門講師による絵画教室があり、幼児対象の体操教室も専門講師が担当して、年齢に応じたプログラムで毎月実施している。 園内や園の周囲は自然豊かで、思いきり体を動かして遊び、季節の変化も体感できる 園庭が広く大きな桜やあんずの木がある。2階のバルコニーデッキも広く、春はお花見、夏はプール遊び等ができる。食育の一環で、園内で子どもたちが野菜を栽培している。園の周囲には法人所有の広いグラウンド、人工芝の広場、花壇や畑があるガーデンがあり、戸外活動で利用している。思い切り体を動かして遊んだり、自然の現象を体感して、花や野菜、木の実、落ち葉、鳥や虫等を観察したり、触れることができる。また、近隣にも様々な公園があるため、目的に応じて選択して出かけている。		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
文化・風習を体験する季節行事や、様々な経験ができる遠足・お泊り保育等がある 一年を通して様々な季節行事を開催して、七夕飾り、盆踊り、お月見団子づくり、焼き芋、餅つき等、子どもたちが日本の文化・風習を体験している。日常の保育活動の中で、製作やお話等に行事にまつわるものを取り入れたり、行事食を企画して子どもの興味や関心を高めている。また、幼児は園外保育・芋ほり遠足・お泊り保育等で、バスで遠方に出かけたり、日常とは異なる体験をしている。外部から招いて、声楽や楽器演奏のコンサート、人形劇団公演等も開催しており、園での生活が楽しく充足感があるように工夫している。 運動会・お楽しみ会・お店屋さんごっこ等、子どもたちが協力して作り上げる行事がある 夏まつり・運動会・お楽しみ会・お店屋さんごっこ等、子どもたちが協力して作り上げたり、本番に向けて練習しやり遂げる内容がある。運動会の練習は広いホールや法人グラウンドを使い、子どもたちが思う存分に動くことができる。年長児は開会・閉会式の役割があり、務め上げることが自信につながる。幼児は縦割り保育活動を毎月実施しており、2月にお店屋さんごっこに縦割りグループで取り組む。全体のテーマ、お店の種類、商品やデザイン等を、子どもたちが話し合い決めて製作する。乳児クラスもお客になり、買い物体験を楽しむ。 保護者には年度初めに年間行事予定を伝えて、事前に内容や準備の様子を知らせている 夏まつり・運動会は卒園児、老人ホームの高齢者、地域の人等が訪れている。七夕交流・敬老訪問は園児が高齢者施設を訪ねて、年長児は学童クラブ祭り、小学校の行事に出かけたりと、園外の様々な人と交流を深める機会がある。保護者には年度初めに年間行事予定表を配布している。行事が近づくと、連絡帳や各種おたよりで子どもたちが取り組む様子を紹介し、行事のお知らせを配信する。保護者参加行事は夏まつり・運動会・お楽しみ会・餅つき・懇談会等があり、行事終了後のアンケートで保護者の感想や意見を聞き、次年度の参考にしている。		
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
クラス担任以外でも子どもの状況や配慮がわかるように、会議等で全職員で共有している 保育時間は7時15分に始まり、延長保育は月曜日から金曜日に19時15分まで行っている。延長保育は通年利用制とスポット利用制があり、日によって利用人数が異なる。クラス担任以外でも、一人ひとりの子どもの状況や必要な配慮がわかるように、職員会議や各フロアの会議で、子どもの様子を全職員が共有している。また、その日の様子や伝達事項は、各クラスの引き継ぎノートに記録して共有する。延長保育は専任の保育士を配置し、子どもが安心して過ごせるように配慮している。補食はおにぎり等を手作りで提供している。 年齢に合わせた環境を整えて、時間や状況に応じて楽しく過ごせるように工夫している 園舎は6年前に建て替えた鉄骨2階建てで、乳児保育室は床暖房があり、靴下を脱いで裸足保育を行っている。幼児クラスの保育室は隣接して間を仕切っているが、朝夕の自由遊びは一部を開けて、子どもたちが互いに行き来ができる。広い園庭とホールがあるほか、バルコニーデッキも広く、プール遊び、花見、屋外での食卓会等を行っている。園舎の近くには法人グラウンド、人工芝の広場もあり、思いきり体を動かして遊ぶことができる。また、園舎は法人の広い敷地内にあり、関係者以外の人や車が侵入しないため、安全で落ち着いた環境を保っている。		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
◎あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
0歳児、1歳児の個々に応じた援助や配慮を、主任も加わりクラス内で検討している 0歳児クラスは保育室の隣に食事専用の部屋があり、時間や授乳、離乳食は一人ひとりに応じて提供している。保育者と1対1で食事をして、応答的なやり取りをしながら、子どもの様子を観察している。離乳食の進め方は保護者と連携するとともに、園内では主任も参加して離乳食会議を定期的開催し、個々の援助を検討している。1歳児クラスも年度初めは、低月齢児の食事内容をクラス担任と主任で相談して個別に配慮している。室内に食事コーナーを設けて、年度前半は2グループに分かれて、少人数で食事をするようにしている。 急遽、給食の提供体制が変わり、業者と連携して子どもに適した食事の提供に徹している 調理スタッフの不在で、年度途中で急遽、給食業務が外部委託になった。まずは、子どもの状況に応じた食事の安全かつ確実な提供に徹している。毎回感想や意見を調理スタッフに伝えて、毎月の給食会議で業者とメニューや調理方法を検討している。離乳食、アレルギーや体調不良に応じた除去食、宗教的な配慮等は、個別に対応できる。行事食は一時中断したが、七五三・クリスマス・誕生会等から徐々に始めている。保護者には毎回給食サンプルを展示しており、試食会を開催して感想や意見を募った。今後も業者と連携を深めて、食事内容の充実に取り組む。 野菜を栽培し、芋ほり遠足・焼き芋・餅つき等の行事を通して、食への関心を深めている 食育計画を作成して、幼児クラスでは野菜の栽培や季節に合わせたクッキングを行っている。ピーマン・枝豆・そら豆等を育て、成長を観察して収穫する。10月に芋ほり遠足があり、収穫した芋を使い園庭で焼き芋を作る。そのほかに季節行事でお月見団子づくり、餅つきがある。例年、クッキングは野菜の皮むき・種とり等の体験や、カレーライス・おにぎり・お菓子等の調理があるが、今年度は厨房の体制が変わり対応が難しく中断している。玄関ホールに当日の給食サンプルを展示するとともに、使用した材料を3色食品群に分類して表示している。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心をもち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
手洗い・うがい・歯磨きの習慣化、体力増進に取り組み、様々な安全教育を実施している 保健計画は月ごとに健康管理の取り組みを定めて、薄着・手洗い・うがい・歯磨き等の習慣化、感染症・熱中症の予防、戸外遊び等で体力増進などに取り組んでいる。年齢に応じた手洗い・うがい指導を行って、歯磨きは1歳児以上が食後に行い、幼児クラスは歯科衛生士が来園して歯磨き指導を実施する。安全の取り組みは、様々な設定で避難訓練を毎月実施して、子どもたちも参加している。行政や警察・消防署等の協力があり、交通安全教室、起震車・煙テント体験、防災学習なども開催して、体験や見学をしながら学んでいる。 看護師・嘱託医と子どもの健康状態を把握して、医療的な配慮や必要な対応をしている 看護師・嘱託医とともに健康管理を行っている。事務室の隣に保健室があり、体調不良やケガの時は必要な処置をしたり、職員が見守りながら安静に保つことができる。入園面接に看護師が参加して子どもの健康状態を把握し、児童票や健康管理カルテに記録して他の職員と情報を共有している。各種アレルギー、喘息、熱性けいれん等、医療的な配慮が必要な場合は、保護者を通して主治医の指示を確認して対応している。薬は原則として預かりをしないが、主治医が必要と判断した場合は、与薬指示書の提出を受けて処方薬の取り扱いに対応することができる。 保健だより・講演会で健康管理の情報を保護者に提供して、感染症情報を掲示している 乳幼児突然死症候群の予防は、睡眠中に呼吸・顔色・姿勢等を定期的に確認して記録している。乳児は午睡チェックのセンサーや記録システムも導入している。保護者との連携は、入園時面接やオリエンテーションに看護師が参加して、園の健康管理の取り組みを説明するとともに、保護者の質問や要望を聞き対応している。保健だよりを毎月配信して、季節に応じた健康管理の情報を提供するほか、外部講師を招いて保護者や地域の人に向けた保健講演会を毎年開催している。園内で感染症が発生した時は、最新の情報を玄関ホールに掲示して知らせている。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
延長保育を実施し、急な残業等にも対応できるようにしている 各家庭の子育てや就労等の個別事情を把握し、細やかな対応を心がけている。延長保育は18時15分から19時15分までとして実施している。延長保育は登録制を取っているが、当日の15時までに申し出てもらうことで、スポットでの利用も可能としている。土曜保育については水曜日の昼までに申し出てもらうことで対応している。 日々の送迎時、個人面談、懇談会等を通じて、保護者と意思疎通を図るようにしている 保護者とは子どもの様子を園から伝えたり家庭での様子を聞く等、コミュニケーションを図ることで信頼関係を築いている。お迎えの際にはエピソードを添えて、子どもの良い部分を伝えるように努めている。全園児の保護者を対象として、年1回個人面談を実施し意思疎通を図っている。保護者参加の行事を企画したり、1年を通して保育参観を受け入れる等、子どもの様子を見てもらうことができるようにしている。クラス懇談会を年2回実施しており、クラスに合ったテーマを決め、保護者同士で話し合うことができるようにしている。 連絡帳や掲示、各種たより等を活用して保護者に子育ての情報を伝えている 連絡帳は0から2歳児の乳児クラスで使用し、保護者と情報を共有できるようにしている。幼児クラスは、必要時に個々でノートを活用してやり取りをしている。また、クラスごとの様子を掲示して保護者に知らせている。定期的に園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりをシステムを活用して配信し、保護者に園の考えや育児の情報、園での子どもの様子等を伝えている。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
敷地内に同法人が運営する福祉施設があり、普段から交流が図られている 敷地内に同法人が運営する複数の福祉施設があり、その利用者と交流する機会を設けている。隣接する法人内の高齢者施設とは、一緒に製作物をしたり、行事の練習の様子を見てもらう等して交流を図っている。また、法人内の学童クラブとは、行事に年長児が参加したり、遊びに行く等して交流する機会が多い。 都立高校の生徒や区内の保育園等との交流の機会を設けている 法人内の施設以外にも地域の人々との交流の機会を設けている。近隣の都立高校の生徒とは1年を通して互いに行き来をして交流を図っている。小学校の行事に5歳児が招かれたり、園行事に卒園児を呼ぶ機会も設定している。近隣の公園では、区内の保育園の年長児と交流する機会もある。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが主体であるように、まず子どもの気持ちに共感して、その子に合わせて援助する	
内容①	子どもが自分で考えて選択し自ら行動する力を育てる、子ども主体の保育に取り組んでいる。子どもが自由に遊び込みながら、遊びが展開していくように、各保育室でコーナー遊びを取り入れている。年長児は、テーマを設定して遊びや経験から主体的に学ぶプロジェクトや、幼児クラスではサークルタイムの取り組みがある。子どもに接する時は子どもの気持ちに共感することを大切にして、否定語を使わないように心がけている。一人ひとりの個性やペースを把握して、集団生活に入れない子に様子を見て声をかけて援助する等、その子に合わせる配慮をしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	地域との交流が盛んで、子どもたちが日常的に様々な人と接する環境がある	
内容②	敷地内に同法人が運営する複数の福祉施設があり、子どもたちが日常的に様々な人と接して交流できる環境がある。法人内の高齢者施設とは、一緒に製作物をしたり、行事の練習の様子を見てもらう等して交流を図っている。また、法人内の学童クラブとは、行事に年長児が参加したり、遊びに行く等して交流している。都立高校の生徒とは1年を通して互いに行き来をして交流を図っている。小学校の行事に5歳児が招かれたり、園行事に卒園児を呼ぶ機会も設定している。区内の保育園の年長児と近隣の公園で交流する機会もある。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	年間防災計画に基づく訓練を行い、日常のリスク対策を含む安全管理体制を整備している	
内容③	年間の防災計画に沿って毎月の避難訓練を実施している。実施後は職員会議で振り返り、課題を整理して次の計画に反映させている。日常のリスクに対しては、安全衛生会議・安全対策会議・研修報告等による情報共有や、ヒヤリハット報告の収集・分析、改善に向けての話し合いにより安全な環境整備に努めている。	

No. 特に良いと思う点	
1	タイトル 環境を活かして、戸外で思いきり体を動かして遊んだり、日常的に様々な人と接する機会がある
	内容 当園は法人の広い敷地内にあり、関係者以外の人や車は侵入せず、安全で落ち着いた環境がある。近くに同法人の高齢者施設、障がい者施設、学童クラブ等があり、子どもたちは日常的に様々な人と接したり、行事を通して交流がある。また、朝夕の自由遊び、季節行事、幼児は毎月縦割り保育活動で異年齢交流も行っており、互いの違いを認め合い尊重することを経験から得ている。広い園庭やホールがあり、近くには法人のグラウンド、人工芝の広場、ガーデンもある。戸外活動で利用しており、存分に体を動かして遊ぶことができる。
2	タイトル ICTの活用を着実に進めて、情報発信と職員間の共有化を実現している
	内容 ICTのシステムの活用を段階的に進めている。保育計画の立案等を基本に、園全体での情報共有に効果を上げている。また、登降園に関する情報をはじめ、各おたよりの配信、メール機能等、活用の幅が広がっている。連絡帳の移行については、職員が入力や確認できる環境の充実を図るとともに、年度内に保護者による試行を予定している。保護者とさらに連携を図り、その後の支援に活かせるように期待が持たれる。
3	タイトル 保護者との信頼関係を築くためのコミュニケーションと丁寧な対応に努めている
	内容 保護者とは子どもの様子を園から伝えたり家庭での様子を聞く等、コミュニケーションを図ることで信頼関係を築いている。お迎えの際にはエピソードを添えて、子どもの良い部分を伝えるように努めている。各家庭の子育てや就労等の個別事情を把握し、細やかな対応を心がけている。保護者の気持ちに寄り添い、できる限り要望には応えている。難しい場合は理由を丁寧に説明して理解を得るように努めている。また相談には誠意を持って対応し、必要に応じて園から声をかける等、積極的に保護者とコミュニケーションを図るように努めている。
No. さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル 給食の委託業者とさらに連携を深めて、食事や食育の充実が期待される
	内容 調理スタッフの退職が相次ぎ、9月から急遽、給食業務を外部の業者に委託した。まずは、子どもの状況に応じた食事を安全かつ確実に提供することに徹して、行事食や食育活動のクッキングを中断してスタートした。毎回、気づきや感想を調理スタッフに伝えて、毎月の給食会議でメニューや調理方法を業者と話し合う。離乳食、アレルギー、体調不良、宗教的な配慮は個別に対応できる。最近は行事食を徐々に取り入れたり、保護者の試食会を開催して感想や意見を募った。業者と協力して取り組んでおり、今後も連携を深めて、食事や食育の充実が期待される。
2	タイトル 事業継続計画の実効性を高めるとともに、検証後は速やかに利用者および関係者への周知が期待される
	内容 今回の職員自己評価ではリスクマネジメントの項目において、災害や深刻な事故等に対応したBCPの策定について評価が高く、周知徹底がうかがわれた。ただ、園舎建替え後のマニュアル等の見直しは追い付かない状況もあり、BCPについても現状を踏まえた更新を課題としている。近年の気象災害の影響も考慮のうえ、実際の運用に向けて訓練を通じた検証を進めると共に、利用者や関係者への速やかな周知が期待される。
3	タイトル 保育園の魅力発信を強化することで、園児の獲得や将来の人材確保につなげていくことが期待される
	内容 少子化の影響で園では園児獲得と人材確保を課題として捉えている。これらの問題に対応するため園の魅力効果的に発信し、保育ニーズに即した情報提供の強化を目指すとしている。今後の取り組みが期待される。